

コラム28：野鳥の話

('13・11・25)

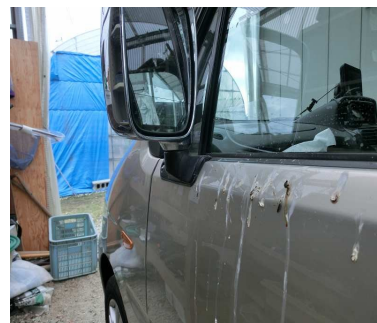
ある秋の日、穏やかに晴れた昼下がりのことです。イチゴのハウスで仕事をしていると、細君が急ぎ足でやってきます。

「ちょっとちょっと！早よう来て！」
「どうしたんなら、この忙しい時に？」
しぶしぶ付いて行くと、自分の車を指さします。
「あれ見て！あれ見て！」
車のサイドミラーの所に、一羽のかわいい小鳥。
「ありゃあ、何しとるんかいの」
「さっきから、あそこから離れんのんよ」
「何をしとるんじやろう」
「ズーと、鏡を見とるんよ。自分を好きになったんじゃないん」
「そがんことがあるかのう。自分の仲間がおると、思うとるんじゃないか」



その日から、その野鳥は連日のように細君の車に（正確にはサイドミラーに）やってきました。かわいい鳥なので、本(コラム:26の注を参照)で調べてみると、すぐにわかりました。(胸とお腹は橙色で翼に白斑)こいつは、まさしく「ジョウビタキ」です。(ヒッ、ヒッ、ヒッと鳴く)とありますが、私には「ピッ、ピッ、ピッ」という「学校の運動会の笛」に聞こえます。(TVアンテナなどの目立つ所によく止まる)とありますから、好奇心の強い、人なつこい性格のようです。(翼の白い斑点が目立つゆえ、紋付き鳥(もんつきどり)とも呼ばれる)ようで、私たちは彼を「モンちゃん」と名づけました。白斑の大きいのがオスということなので、彼をオスと断定したのです。

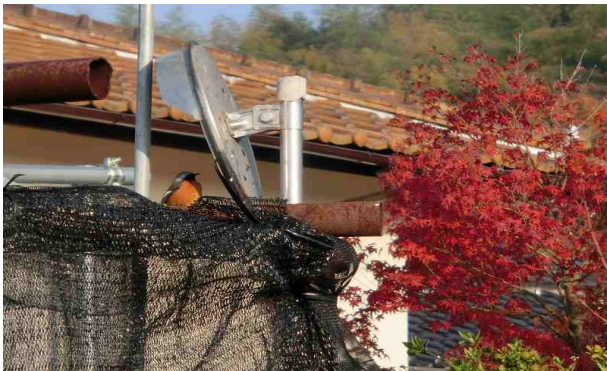
最初は「またモンちゃんが来とるよ。かわいいね」と言っていた細君も、1週間もたつと、大きく変化してきました。車のミラー付近が「糞だらけ」になっているのです。拭いても拭いても、毎日のように汚してくれるのです。「もう我慢できない！」彼女は、次の日からサイドミラーを閉じ、その付近に新聞紙を貼り付けてしまいました。それでも、モンちゃんはあきらめませんでした。昼間は、改築のために出入りしている業者のトラックのサイドミラーを飛び回り、さらには少し離れた温室の側においている私の車をターゲットにしてきました。おかげで、こんどは私の軽自動車が「糞だらけ」の被害を被ることになりました。



もう一つ、彼にとって重大な問題が発覚しました。この辺を縄張りになっている猫の存在です。私の家の庭や畑は、近所の猫の通り道であり、「猫たちの遊戯場」となっていることに気づいたのです。車のミラーで遊ぶ彼を、近くの物陰でジッと見つめている猫を、何度か目撃しています。私たちは「悲惨な結末」を予感しました。

「糞」と「猫」、この二つの問題を解決するには、どうすればよいのか？細君が、いとも簡単に言います。「どっか安全な所に、鏡を付けてやればいいじゃない」。そうは言っても、材料もないし、そんな適当な場所が見つかるものでもないのに……ありました！細君が実家から持ち帰った古い大き

なカーブミラーです。私はこれを引っ張り出し、何処か取り付け場所は……これもありました！イチゴ苗の夏場の置き場の中の、鉄の支柱の上です。ここなら猫に襲われる心配もなさそうだし、人もほとんど通りません。



意外に早く反応がありました。取り付けて二日後には、その大きなカーブミラーの前で、じっと鏡を見つめている彼を見つけたのです。雨の降る夜明け前にも、薄暗くなった夕暮れ時にも、彼はそこにいます。そこにいない時は、近くの植木や電線から鳴き声が聞こえます。どうやら家の母屋の軒下辺りに巣があるようで、ここを自分の縄張りに決めたようです。それにしても、いつも鏡のそばにいて、一体いつ餌を取って、生きているのか？きっと気づかない時に頑張っているのでしょう。

「モンちゃん」が、我が家(正確には敷地内)に来て早や二週間。「ピッピッ」という笛のような高い鳴き声は、よく聞こえてきますが、以前ほどミラーの側にはいないようです。「もう飽いだんかのう」とすると細君が、したり顔で曰く「あれは求愛行動なんよ。発情期を過ぎたらやらのんよ」……私はなぜか納得できません。それじゃあ、彼が鏡を見つめるのは、恋人さがしの代償行為だったということになりますね。一生の間「つれあい」を見つけることができない、寂しい「一羽鳥」とは思いたくないのですよ。

小鳥鳴く 枯れ木をさがす 秋の暮れ



「今日来とる？」「梅の木に止まっとったよ」。私たち夫婦の朝一番の会話です。2-3mにまで近づいても逃げないほどに、今はすっかり我が家の住人となりました。自分の安全領域をちゃんと把握している、賢い鳥のようです。最近では、彼の姿がしばらく見えないと不安になるんですよ。他の鳥や動物などの危険と闘い、大自然の中で天涯孤独、遅しく生きている、野生の小鳥「モンちゃん」。彼の今後を、これからも見守ってゆきたいですね。

「小鳥一羽でも、こがん事になるんじゃけえ、人間と他の生き物が一緒に生きるゆうのは、いたしいことよのう」